

ぽこあぽこ

『和』

通所支援事業責任者 吉田 丈夫

私は、これまで相談支援・GH・居宅介護の事業を掌握する地域支援課を担当し、主に生活に密着した支援をさせて頂いておりましたが、4月からはご利用者の日中における活動（就労活動や機能維持・回復、レクリエーション等）に関する支援を担当させて頂くことになりました。当法人が、これまで通所支援事業で培ってきた活動や支援のことを学ばせて頂きつつ、今後の活動に活かしていくことができるよう精進したいと考えておりますので今後もしもご指導ご鞭撻頂きますよう宜しくお願い申し上げます。

さて、平成30年4月1日、次の3項目を軸にした改正障害者総合支援法および児童福祉法が施行されることになりました。

- ① 障がいのある方が自らの望む地域で生活を営めるよう生活と就労に対する支援の一層の充実
- ② 高齢の障がいのある方による介護保険サービスの円滑な利用を促進するための見直し
- ③ 障害のある児童への支援のニーズの多様化にきめ細かく対応するための支援の拡充、サービスの質の確保・向上のための環境整備

そして、新たな取組として障がいのある方の一般就労の定着を支援する「就労定着支援」や病院や施設から地域生活への意向を支援する「自立生活援助」などの新しい事業も創設されます。

しかしながら、これまで課題として議論されてきた内容が今回の法改正に反映されたわけではありません。例えば、報告書では、移動支援については通学や通勤などに関する移動支援の検討を挙げていましたが、本改正では具体的な支援体制は盛り込まれていません。福祉サービス等の制度は画一的なものであり、個々の支援全てを盛り込むことは不可能です。その狭間を埋めるためにはご本人の努力や妥協もさることながら我々のような地域の事業者や、行政、ご家族や地域の方々が輪となり、ご本人を包み込むように支援体制を構築しなければなりません。これまでの保護的政策から「本人の主体的な生活」へと変遷してきた日本の福祉は財政難というバックボーンがあるものの「本人」の意思を出来るだけ尊重して行く事で結果として地域福祉が充実し「共生社会」誰もがくらしやすい地域」になって行く事になると思います。

当法人の平成30年度方針は「和」であります。つまり、様々な方とのつながりを大切にし、お互いを思い、助け合いながら総ての方々が幸せになって頂きたいとの方針であります。まさに共生社会の実現を意識した方針であり、通所支援事業所の責任者として相談支援事業所で培った「ニーズをしる」「本人を知る」という経験を活かし、共生社会構築のワンピースになるべく、邁進して参りますので宜しくお願い申し上げます。



法人内事業活動紹介 ～「ワークサポートセンター今人」「我楽」「すみれの里」～

ご利用者と共に元気に、楽しく活動させて頂いています。その中でもピックアップした活動について、ご紹介させていただきます。

■ ワークサポートセンター 今人



●内職班

現在内職班では主に現在100円ショップで販売されているワイヤーをつくっています。クラフトワイヤーなどが流行っており、人気のある商品です。

工程としては、束状になっているワイヤーを決められた長さで切り、筒を使ってワイヤーを巻き取った後に袋に入れ、箱詰めをして出荷という流れになっており、それぞれ担当を分けて、利用者さんが作業をしています。



各々担当している工程は違いますが、一人が作業を止めると他の方の作業も止まる為、協力して作業をされており、メリハリをつけて作業をされており、出荷数が多いと目に見えて成果が分かるので今回は頑張ったなと思われ、仕事に対しての意欲も出され楽しく作業をされています。

また内職班でつくっているワイヤーというのが、全国の100円ショップで販売されており、現在、今人ではしかつくりされていないことが自慢です。ぜひ探してみてください。

■ 我 楽

●ナチュラルカフェ モンステラ



おかげさまで、モンステラカフェはこの春に5周年を迎えることができました。

先日は、カフェの5周年イベントとして北海道フェアなどを開催し、利用者さんと一緒にイベントを盛り上げ、楽しい時間を過ごすことができました。

仕事でも忙しくなってくるときびきびと動かれていますし、利用者さん自身でやるべきことを考え、率先して仕事に取り組まれています。

お客様に「ありがとう」と言われるとすごく喜ばれますし、生き生きとした表情をされます。そういう様子を見ていると、働く事って素晴らしい事だなと思わせてもらえます

●さぼーと班



我楽さぼーと班では、リトミックや水浴訓練、書道や創作活動、内職や散歩など日々、様々な活動をご用意させて頂き、ご利用者の心身の健康のため、機能訓練やレクリエーションに取り組んでいます。

創作活動では月替わりで、壁面に飾り付けをしています。画用紙や毛糸など様々な素材を使用した雛人形や鯉のぼりなどの作品を制作し、楽しみながら季節の変化を感じて頂いています。

また最近では、ご利用者の皆さんとウォーキングを兼ねたお花見外出として宇陀市にある「又兵衛桜」を見に行ってきました。立派な枝垂れ桜以外にも桃の花や菜の花も咲き乱れ、満開の花々に魅了された方からは「来年もまたお花見に行きたい」との声が上がるなどお花見外出を皆さんとても楽しんでいただけたようでした。



■ すみれの里



4月より、新しい仲間も増え、活気に満ちた すみれの里 毎日をみなさんに過ごして頂いております。

現在、すみれの里ではご利用者が【楽しく】【自分らしい】活動ができるよう、運動（ウォーキングや体操）、リラクゼーション、農作業、内職、環境（地域清掃や廃油回収）の時間など様々なメニューの提供を行っております。



地域の学生さんと一緒に作品を作っている様子



また、地域のボランティアさんや学生さんにもご協力をお願いし、喫茶・クラフト・音楽・芸術などの活動も行っております。



《平成 30 年度方針について》

理事長 下村 卓司

当法人は、今年で法人設立 30 周年を迎えます。その間社会福祉は、基礎構造改革の流れを継続し企業参入が進み社会福祉法人だけが福祉の担い手ではなくなりました。これは福祉サービスを利用する方々にとっては非常に有益であり、選択肢が広がりました。

しかし、我々事業者にとっては競争が激しくなるばかりか、昔は受ける事ができていた公的補助金も非常に少なくなり、あらゆる点で措置時代とは違い自主的な運営つまり、経営する事の重要度が増して参りました。経営とは言え社会福祉法人という事は非営利事業体であり、営利を追求する事は許されません。営利を追求できない事業体が営利を追求する事業体と同じ土俵で勝負する為にはどうするかが問われています。

福祉サービスを必要とする方々が我々を選んで頂くためにはどうするのかを考えた経営を間違わないようにしなければ近い将来淘汰されてしまう危険が目前に迫っています。

また、福祉業界だけではなく、団塊の世代が本格的に定年を迎えるこれからの 10 年は各業種業態で人材確保が激しくなり、中でも福祉業界への就職希望者は激減して来ています。同業他社でも人材不足を解消するためベトナムやミャンマーなど第 3 国から働き手を受け入れているようです。福祉は支える人が無くては成り立ちません。

しかし、誰でも良いというわけでもありません。福祉を志す心つまりは人の支えになりたいという心のあつた人材を如何に確保し、育てられるかが重要となります。

時代は移り変わり福祉業界も様変わりしましたが、人を支える事は不変の真理が存在し、その真理は人が人を慮る思いである事は明らかであると考えます。つまり、和の心であり和無くして福祉はあり得ないと思います。

その真理を追究する事こそ営利企業との差別化になり、我々が選ばれる事業体になると信じています。いづいかなる状況でも、制度がどんなに変化しても「和＝心」を大切にする事業体であれば地域に必要な事業体として生き残っていけると信じています。目先の変化にだけ対応するばかりではいけないという事をこの 30 年の失敗経験から得た教訓として、これからの 30 年はどしりと真理追及して参ります。

そこで、平成 30 年度社会福祉法人 以和貴会 年度方針を

和

とし、以下に掲げる 3 つの柱をもって取り組んでいきます。

□財政基盤強化

30 年度の報酬改定を乗り切り赤字事業を 10% 以内にする。

□組織再編

ゆらくの里以外は全て管理者を入れ替え、現場正規スタッフも異動する。新たな視点で事業を見つめ直し、5 年後のイメージに到達する為に事業再編を敢行しました。

□人材雇用・育成

わくわくプロジェクトとはぐくみプロジェクトを完遂する。

《平成 30 年度予算》

平成 30 年 3 月日開催の理事会及び評議員会におきまして、予算を承認いただきました。

社会福祉事業区分 資金収支予算書

(自)平成 30 年 4 月 1 日(至)平成 31 年 3 月 31 日

(単位:円)

勘定科目		予算額	備考
事業活動による収支	収入	就労支援事業収入	49,818,000
		障害福祉サービス等事業収入	730,473,000
		その他の収入	5,742,000
		事業活動収入計(1)	786,033,000
	支出	人件費支出	532,196,000
		事業費支出	82,905,000
		事務費支出	48,190,000
		就労支援事業支出	46,841,000
		その他の支出	5,377,000
		事業活動支出計(2)	715,509,000
		事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	70,524,000
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入	3,800,000
		施設整備等寄附金収入	3,150,000
		施設整備等収入計(4)	6,950,000
	支出	設備資金借入金元金償還支出	17,508,000
		固定資産取得支出	26,900,000
		ファイナンス・リース債務の返済支出	661,000
		施設整備等支出計(5)	45,069,000
		施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△ 38,119,000
その他の活動による収支	収入		
		その他の活動収入計(7)	0
	支出	長期運営資金借入金元金償還支出	10,008,000
		積立資産支出	19,200,000
		その他の活動支出計(8)	29,208,000
		その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△ 29,208,000
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)		3,197,000	

法人研究発表会 2月24日

昨年4月から1年間、29年度のテーマである「意思決定支援」を基に、各グループ（事業）が研究課題を決め、取り組んできた事を研究発表として報告しました。利用者様のご家族にもご参観いただき、ポノビル4階のコミュニティホール「天空 HARERUYA」にて開催しました。各グループのテーマは以下の通りです。



ゆらくの里1G	「みんなで考えた」～入所施設における意思決定支援～
ゆらくの里2G	「故郷への想い・その理想と現実」～心の安定を求めて～
ゆらくの里3G	「想いの伝えかた」
ゆらくの里日中支援	「よさこいの絆で見えた物」
ゆらくの里コテージ	「自己開示」～気持ちを伝える喜びを感じる～
児童支援課	「意思決定支援からはじまる第1歩」 ～経験を重ねることで・・・～
今人	「なぜタイムカードを押さなくなったのか」
我楽	意思決定支援からの学び
すみの里	「プロジェクト始動 この先も続けていくために」

最優秀賞に選ばれた“ゆらくの里日中支援班”「よさこいの絆で見えた物」について報告します。

『以和貴よさこいズム』から見える展望

ゆらくの里日中活動班はなさきチーム
管理栄養士 米田なおみ

柔かい若葉の隙間からさす光も徐々に強く感じられ、過ごしやすい季節となってまいりました。ゆらくの里日中活動班『はなさきチーム』は今日も元気に、よさこい踊りの時間を楽しんでいます。平成29年度研究発表では、私達の取り組みに最高評価を頂きました事、チームを代表し感謝とお礼を申し上げます。よさこい踊り成功の舞台裏には、チーム以外の保護者会の皆様、理事長、企画推進室、今人・我楽・モンスター・すみの里の利用者様と支援員、ゆらくの里利用者様と支援員・アシスタント支援員・厨房調理師・栄養士など、色んな事業所や職種の垣根を越えた『以和貴舞踊会』の協力が大きな鍵となっていました。ある一人の職員の発想と情熱が、以和貴会全体を巻き込む活動となっていく過程には、偶然や必然、ドラマがありました。

今回、研究発表のテーマとなっていた『意思決定』をよさこい踊りを通して表出させ、またそれを見出し、どのような事を大切にしながら支援してきたか、この場をお借りし、もう一度お伝えしたいと思います。このポリシーと協力体制・成長過程を『以和貴よさこいズム』とし、報告させていただきます。

【以和貴よさこいズム】

●其の一 『職員の情熱と閃き』

「日中班で楽しく運動する何か面白い事ないかなあ」と、日々考えることは、ご利用者様の幸福と心身の健康を願う気持ち・・・それは情熱です。その情熱をもって閃きが起こります。今回の『よさこい踊り』です。

●其の二 『偶然と必然の追い風を味方に』

ちょうど、香芝市障文祭の取り組みで「かしばよさこい祭」の開催が決定され、理事長より出演してみないかとの提案がありました。誰がやるの？どのメンバーでやるの？その踊り誰かやったことあるの？など、心配事やリスクは山ほど考えられましたが・・・まずは、その偶然の追い風を味方に、頭の中の閃きを具現化して行こうと動き出しました。そして、法人研究発表は一人では出来ないけれど、チームの協力を得て進めたいプロジェクトには、もってこいの必然の追い風なのです。

●其の三 『企画の魅力』

とにかく、楽しい事、ワクワクすることが大切です。しんどい、辛い事は続きません。音楽に合わせて歌い踊り笑う事は、人間の本能に訴える楽しい事なのだと実感しました。

●其の四 『共に成長する平等感と喜び』

よさこい踊りは、一人の利用者様を除きほぼ全員が初めての取り組みで、共に成長する平等感が有りました。この平等感は利用者様の自発を生み、安心感と喜びをも得られることに繋がります。よさこい経験の利用者様は、自ら教える側となり、チームを助けます。支援する側・される側の関係なく、共に成長する過程は、それぞれに安心感と喜びを得ることが出来ていました。

●其の五 『継続は力なり』

日々の練習の継続を支えるのは、職員だけではありません。アシスタントスタッフや厨房職員なども加わり、毎日の練習を楽しく盛り上げ続けました。

●其の六 『小さな目標・大きな目標』

練習の繰り返しばかりでは、張り合いが無いので、その時々に応じた発表の場を用意しました。関屋老人会⇒かしばよさこい祭り⇒近畿地区知的障害者施設関係職員研修会の懇親会パーティーと小さな目標から大きな目標へと成功体験を糧に大きな舞台へと進めるよう工夫しました。

●其の七 『エンパワメントを信じる』

よさこいの日々の練習では、自主性を重んじてきました。私達は決して強要せず、自尊心を傷つけず、愛情とアイデアそして笑顔で励まし、エンパワメントを見守りました。練習したくないと思われる時は、強要せず踊りの監督や評論役に回ってもらい、あえて声を掛けずそっとしておくなど、どんな意思をも尊重しました。中には、踊りに自信が持てなかったり、なかなか振りを覚えられない方もいらっしゃいました。そのような方には、笑顔で励まし自信消失が気のせいだったかのように楽しく盛り上げ『踊りたい気持ちを引き出す』事に徹してきました。そして、その意思と力を信じ見守りました。すると、どんどんエンパワメントは力を増し広がりを持ち、利用者様はその時々目標に応じて達成感を得ることが出来ました。

●其の八 『井の中の蛙 大海を知る』

私たち支援者は、ご利用者様との活動を施設の中で自分たちの出来る範囲で、毎日精一杯やっています。しかし、それには限界があります。今回のよさこいを通して、地域社会との交流・保護者会やボランティアの皆さんとの交流にこそ、ご利用者様が生き生き出来る事や「やりがい」を感じる事が有るのではないかと実感しています。

以上が、よさこいの成功を通して利用者様の自発や意思決定を引き出した鍵『以和貴よさこいズム』だと考えます。私は、この考えに基づけば、どんな事も出来そうな気がしています。

次に第二、第三のプロジェクトを生み出し、利用者様の幸福の追求をお手伝いさせて頂きたいと想像を膨らませています。そして更にそれが、以和貴会の発展となり『以和貴ズム』が確立することを願いながら、次のプロジェクトに臨む所存です。

最後になりましたが、もう一度、ご協力頂いた多くの皆様に感謝いたします。
ありがとうございました。

アート活動「アトリエ それいゆ」便り

絵画サークル・アトリエそれいゆ
岡橋 三起子

アトリエそれいゆを立ち上げて13年目を迎え、今までに多くの賞をいただくこともできました。所属しているメンバーさん達の制作活動にも、ますます力が入っています。今回の記事では、どの部分に重点を置いて活動しているか書いてみたいと思います。

通常、一般の絵画教室では「技術の向上を目指し」「制作した作品を、高い技術で制作したように見せる」ことが重要視されることが多いのですが、アトリエそれいゆでは「自分が表現したいものを」「自分に合った方法で、自由に表現する」ことに力点を置いています。ここでは「上手い（あるいは下手）」ということはありません。重要ではなく、「(仰々しい言い方をすると)魂のほとばしりをそのまま表現する」ことに力を入れています。

結果、一般の絵画教室では同じような作風がずっと並ぶ光景がしばしばみられますが、アトリエそれいゆの皆さんの作風は、一人ひとり全て異なり、昨年の『CUTE & HUMOUR 展』に於いても、「8人全員の作風が全て違い、当たり前のように、とても不思議です」というご感想をいただきました。

アートの現場では、制作者の表現のキラッと光る瞬間を見逃さないように支援させていただいています。また、「その人には、どのような画材が適しているのか」「どの画材を使用したら、作品が最大限魅力的なものになるのか」ということも、制作の様子をみながら推測し、画材を調達します。製作者の好む・好まざるも関係してくるので、ご本人の意思を確認しながらの作業になります。

「絵画制作の指導」となると「高い技術の習得・継承」がメインとなる為、極めて指示的になることが多いのですが、“アトリエそれいゆ”では「支援」に重点を置いているので、「製作者の意思決定」を重要視しています。使用する画材はもちろん、扱う色彩まで製作者に決めてもらうのです。一見当たり前の話なのですが、一般の絵画教室ではテーマや色彩、構図に至るまで、「全て指導者の指示通り」という状態が往々にしてあります。特に障害のある人の制作活動では、この「自己決定」が重要になってくると活動の中で常々感じているところであり、さらに制作の現場を離れても、日常生活の中で生かされるものではないかと考えています。

「どの色を使いたいですか？」と尋ねると「どれでもいい」というお返事しかされなかったご利用者が、制作を重ねる中で、次第に「この色を使いたい」と、自分の意思をはっきり言えるようになります。さらにこのことが「今日は、この服を着たい」「今はこれを頑張ろう」といった自己選択に繋がっていくのです。そのことで、その人の世界が広がり、その人の豊かな精神性を培っていくことができるのではないかと感じています。

「アートとは生活そのもの」という言葉は、作品を通して「制作者の日常を感じる」ということに尽きるのではないかと、最近になって思うことがしばしばあります。高い技術はあっても「制作者の日常が感じられない」作品が、人々の心を打つことは決してないとも言えます。

これからも「その人らしさ」を大切に、アートの支援に取り組んでいきたいと思っています

アトリエ それいゆ 作品紹介



(左から) 高嶋和江さん「にじいる」、山口裕樹さん「夜光虫-noctiluca-」、・原成信さん「ほとけさま3」、小山加尉さん「不思議な地図」



(左から) 植田隆介さん「船出航!」、西谷光世さん「亀は万年」、内田千恵さん「my favorite things」、唯吉茜さん「アカネサス」



成人通所事業所 入所式

4月1日

春風が心地よく吹き桜も満開の中、平成 30 年度の今人・我楽・すみれの里入所式を、香芝市総合福祉センターにて開催致しました。今年度は3名のご利用者様を迎える事が出来ました。新しい場所で緊張されておられる様子も見られましたが、元気に参加して頂き、式に参加された先輩のご利用者様とお祝いさせていただきました。

今後は各活動を通して、色んな楽しい行事にも参加して楽しんでいただけたらと思います。これから楽しい事も、もしかするとつらい事もあるかもしれませんが、いつも共に寄り添って一緒に成長していけるよう職員も精一杯サポートしていききたいと思います。



新入職員紹介

ご利用者のために
精いっぱい頑張ります
どうぞよろしくお願いします



ながはた ひとみ
永畑 瞳 (2月5日入職)

ゆらくの里 正職員



2月からゆらくで勤務させていただいています。ご利用者様の笑顔を引き出せるよう、笑顔で頑張りたいと思います。

つじ さとえ
辻 智恵 (2月13日入職)

ゆらくの里 パート



2月からゆらくでアシスタントとして勤務している辻です。1日も早く利用者さんのお役に立てる様に頑張りたいと思っています。

うえだ しほり
上田 詩穂里 (2月22日入職)

ゆらくの里 正職員



2月からゆらくで勤務させて頂いています。ご利用者の皆様にとって居心地の良い存在になれるよう楽しみながら頑張ります！

やすづか ふとし
安塚 太

(3月12日入職)



すみれの里 (SORA) 正職員

3月の中旬から、ふれあいキッチンSORAで勤務をさせて頂いてます。まだまだ分からない事だらけですが頑張っていきますので、よろしくお願いします。

はまさき しょう
濱崎 翔

(3月26日入職)



ゆらくの里 正職員

3月26日より、ゆらくの里で働かせて頂いております。全く未経験の分野で、戸惑うことばかりですが、少しずつ学びながら頑張っていこうと思います。どうぞよろしくお願いします。

いそべ りょうこ
磯部 良子

(4月1日入職)



すみれの里 (SORA) パート

皆様のおかげで楽しく働かせて頂いています。ありがとうございます。早く仕事を覚えてお役に立てるよう頑張ります。よろしくお願いします。

すぎやま ゆうこ
杉山 祐子

(4月1日入職)



すみれの里 (SORA) パート

4月から、ふれあいキッチンSORAで勤務をさせて頂いてます。お客様に喜んでいただけるように頑張りたいと思います。』
よろしくお願いします。

いまなか みずき
今仲 瑞希

(4月1日入職)



はぐらいぶ 正職員

4月からはぐ・らいぶで勤務させて頂いています。楽しく子どもたちと成長していきたいです！！

おかむら さくら
岡村 さくら

(4月1日入職)



はぐらいぶ 正職員

4月からはぐ・らいぶで勤務させて頂いています。明るく元気に！！頑張りますので、よろしくお願いします。

たばやし
田林

はるな (4月1日入職)



ゆらくの里放課後等
デイサービスセンター 正職員

4月からゆらくデイで勤務させて頂いています。分からないことはたくさんありますが、先輩たちや子どもたちから学び、吸収していきたいです。元気いっぱい頑張りますのでよろしくお願い致します。

いぬい あきほ
乾 秋穂

(4月2日入職)



ゆらくの里 正職員

4月2日より、ゆらくの里で働かせていただいています。介護の仕事も、障がいのある方と関わらせていただくことも、初めてのことで、覚えることが多く大変ですが、精一杯頑張りたいです。よろしくお願いします。

奈良県福祉・介護事業所認証制度

管理部 人事担当 西原 功

当法人の事業所が、『奈良県福祉・介護事業所認証制度』において、“安心して働ける職場”として、奈良県知事の認証を受けました。

今回認証を受けたのは、「障害者支援施設ゆらくの里」「ゆらくの里コテージ・コテージ Jr.」「風鈴山荘」「ゆらくの里放課後等デイサービスセンター」です。

今後も安心して働いて頂けるよう、職場環境の改善などを継続していきます。



奈良県福祉・介護事業所認証制度とは・・・

平成 28 年 12 月から、福祉・介護事業所における人材育成の取組や就労環境等を求職者等から「見える化」することで、求職者が安心して応募、就職できるようにするとともに、福祉・介護事業所の意識改革、職員の就労環境や処遇等の向上を図る制度です。人材育成や就労環境等の整備など 6 分野 20 項目の評価項目を全てクリアした事業所が、奈良県知事より“安心して働ける職場”として認証を受けることができます。



★就職イベント情報★

当法人では、毎月、法人就職説明会を開催しています。

福祉の仕事に興味がある方や、自分の“とくい”を活かしたい方など、まずは一度ご参加下さい。

開催日	会場	開催時間
6月16日(土)	橿原文化会館(近鉄大阪線 大和八木駅下車 徒歩3分)	I部: 10時～12時 II部: 14時～16時

参加を希望される方は、①電話(0745-77-8788)②マイナビ 2019(新卒のみ)③専用申込フォームのいずれかの方法でお申込み下さい。お待ちしております。



【マイナビ 2019】



【6/16 申込フォーム】



「ぽこあぽこ」平成 29 年度寄付金報告

平成 29 年度もたくさんの方々から総額 679,000 円の寄付をいただきありがとうございました。皆様方の「支え」により以和貴会が運営できていることを実感します。29 年度に頂きました寄付金は、ゆらくの里の建て替え資金の一部、地域の方々との交流行事「IWAKI 夏フェス」及び「法人 30 周年行事」に使用させていただく予定であります。今後も法人は、コンプライアンスを強化し法人運営の透明化を図り、安全で安心な法人であり続けていきます。

清水基金補助金決定！

平成 29 年春に申請しておりました「厨房改善事業」において、清水基金より補助金を頂戴することが決定しました。この補助金を活用した設備投資により、これまで以上に温かいものは温かく、冷たいものは冷たく提供できるようになり、提供できる食事メニューが増えることとなります。厨房スタッフ一同、更に腕を磨き、手作りの美味しい食事を提供してまいります。

補助金事業名・・・ 温冷配膳車導入（厨房スペースの拡大工事を含む）
事業総額・・・ 5,646,240 円（申請当初）
補助金額・・・ 3,800,000 円
事業実施日・・・ 平成 30 年 6 月中旬以降

「ありがとうございました」

多くの方よりご寄附いただきありがとうございました。皆様方からの寄付を施設整備等、有効に活用させていただき、ご利用者のために使用させていただきます。

《個人》

野島佳枝、牧村元嗣、増尾明広、弓場鉄男、平田典子、池上治人、中筋廣次、匿名希望 1 名

《業者ほか》

(株)タクサン、船木燃料店、(株)ステップワン、(株)田原建設

(順不同・敬称略)

《賛助会員募集》

引き続き賛助会員を募集いたします。同封の振込用紙にて会費のお振込を是非お願い申し上げます。寄付金控除を受けるための領収証をご希望の方は「通信欄」にてご連絡ください。

《編集後記》

4 月より新しい年度を迎え、当法人でも職員の入退職などにより、“出会い”と“別れ”がありました。また、各事業において異動があり、新しい仲間、新しい目標と共に、心機一転、新たな第一歩を踏み出しました。

発行： 社会福祉法人 以和貴会
住所： 〒639-0261
奈良県香芝市尼寺 6 1 6 番地
編集責任者：理事長 下村 卓司
Mail： office@yuraku.or.jp
発行： 平成 30 年 5 月